

# 徳島市地域振興施設（道の駅）整備基本計画策定委員会

## 第4回委員会（議事要旨）

### ■議題

#### パブリックコメント・議会意見に対する意見交換

##### 【事務局】

- ・ パブリックコメントの結果の説明
- ・ 議会の意見の紹介
- ・ 地元勉強会の概要説明

##### 【A委員】

- ・ パブリックコメントの12番に食育という言葉がでてきているが、ここでは親子で農業を学び体験することを指して食育という捉え方をされている。加えて、食育というのは料理の観点も必要ではないかと思う。料理教室を道の駅に別に作るとなると大変だが、最近では移動調理台というのがある。農業支援研修室がどれくらいの大きさになるのかはわからないが、ここに移動式調理台を設けておけば研修にも料理教室にも使えて効果的ではないか。
- ・ 食育という言葉は素案に出ているか。

##### 【事務局】

- ・ 出ていない。

##### 【A委員】

- ・ 出ていないのであれば、農業政策というか食生活の一面である食育という言葉を入れてもいいのではないか。

##### 【B委員】

- ・ 農産物の料理の仕方を皆で研修するという場にもなりえる。

##### 【A委員】

- ・ その通りである。以前も話したかもしれないが、国府地域の伝統料理があれば、高齢の方々が講師になって若者に伝統料理を伝えていく場になる。

##### 【C委員】

- ・ このパブリックコメントは何人の方からもらったか。

##### 【事務局】

- ・ 6名である。

##### 【C委員】

- ・ 重複している意見もあるのか。

##### 【事務局】

- ・ 重複しているものはまとめて整理している。

**【C委員】**

- ・ 町外町内、男女の区別はあるか。

**【事務局】**

- ・ 国府町内は4名、町外の方は2名。
- ・ 性別や年代はアンケートに求めている。

**【B委員】**

- ・ かなり詳しく書かれているので、道の駅に関心をもたれている方や参加したい方がおられるようである。

**【事務局】**

- ・ 中にはそういう方もいると思う。

**【B委員】**

- ・ 素案では施設規模と施設のイメージを整理しているが、どういう人が運営して、何をしたいかによって話は変わってくる。戦略としては、門戸を広げておいて多くの人を募り、本当に道の駅の運営に参加したい人をそこから絞り込む手法や、或いは絶対必要ないものを決めて検討を省略するという手法があるが、現状はそれらがすべて後回しにされている。それが今回の一番悩ましいところである。
- ・ 今後、基本設計を進めていくにあたり、ある程度の規模と費用が見えていないと予算が立たないので、次年度に具体的にしていく必要がある。
- ・ 素案自体は全体を俯瞰的に捉えたものとして出来上がっている印象を受けるが、案として無くしてしまうと次に取り入れるのが難しくなるアイデアやキーワードを残すことで、今後の検討で生きてくる可能性が出てくるものもある。パブコメの回答の中で設計や運営で考えると記載してある事は、基本計画の中で取り入れることも可能であるという理解でよいか。

**【事務局】**

- ・ パブリックコメントのご意見によって基本計画の文言を手直しをした方がよいということであれば訂正するということになるが、基本計画を手直しをしなくても、次のステップで十分検討可能な部分については基本計画の手直しや変更は行わずに、次のステップの設計や運営の中でご参考にさせていただくという回答にさせていただきたい。

**【B委員】**

- ・ 今の基本計画のなかでも、例えば（パブコメの）3番から18番に関しては入れることが可能で、入れるか入れないかはそれぞれを判断するということになるということか。
- ・ 食育など、キーワードとして入っていた方が良いのであれば入れた方が問題がないかもしれない。

**【D委員】**

- ・ 計画地が環状線の西側であれば、配置を考えると道路の西側に山があり景観的に

は良好であるため、レストランなどの施設から山を望むような施設配置とすることが好ましいと考えるが、素案の 3.2 機能配置の検討にあるレイアウト図では、その方角に運営者駐車場がある。配置を再考した方がいいのでは。

**【事務局】**

- ・ 素案内のレイアウト図は、前面道路と各施設の繋がりを示した機能図であり、特定の敷地を想定した配置ではない。当然、基本設計の配置計画の中で検討していく。

**【B委員】**

- ・ 周辺景観を配慮した施設計画の話はどこかに書いていないか。

**【事務局】**

- ・ 景観への配慮については素案の 3.2.1 (1) に記載しており、農家レストランからの風景や、国府らしさを感じることが可能な施設配置とすることを謳っている。

**【C委員】**

- ・ 先程の市議会で出た 3 つの意見をもう一度ゆっくり言ってほしい。

**【事務局】**

- ・ 1 つ目が、高齢者が集まるイメージがあるが、若者も訪れる魅力ある施設整備
- ・ 2 つ目が、集客を高めるために付加価値のある施設整備
- ・ 3 つ目が、防災の観点から市全体を考えて防災機能を持った施設整備である。

**【B委員】**

- ・ 防災について、市としてはどういう考えを持っているのか。

**【事務局】**

- ・ 地域の避難所として位置づけている。
- ・ 市としては、国府地区については避難所機能や地域の防災倉庫的なものがあれば良いと思うが、議会で出た意見は広域的な拠点という意味である。

**【B委員】**

- ・ 様々な災害時において集積拠点が議論されていると思うので、そういった位置づけで整備されているのかという確認である。

**【事務局】**

- ・ 市の考えとしては大きな施設が出来るので、地域の避難所という位置付けでいいのかどうかという考えもあるが、現段階では避難所としている。

**【E委員】**

- ・ 入浴施設は整備費用や維持費が高額なのか。

**【事務局】**

- ・ これから温泉を掘るとなれば、施設の必要面積・費用等考えると現状では難しい。

**【E委員】**

- ・ 簡単な足湯なら費用はかからないのではないか。

**【事務局】**

- ・ 足湯も水道水では魅力のあるものではない。

**【C委員】**

- ・ (温泉でなくても)延命水ですればいい。

**【E委員】**

- ・ 若者を集めるのには 必要だと考える。遊びの一角に、足湯だけならかからない。広さは大きなものをイメージしているわけではない。

**【B委員】**

- ・ 延命水をタンクで持ってきて沸かしてやるならそんな大したことではない。やる気があるところがあれば出来る。最近風呂桶みたいなものでやっている。

**【C委員】**

- ・ 衛生管理の問題が出てくるのではないか。

**【F委員】**

- ・ 条件は最初に色々出しておいて後で絞っていけば、現段階では案として入れておいてもいいと思う。掘らずに足湯ができる方法があるかもしれない。

**【事務局】**

- ・ 今後の検討の中で、足湯は衛生面等についても考慮しながら、色々調べていきたい考えである。

**【A委員】**

- ・ 若者をターゲットにした施設は色々あると思うが、要点は2つあると考えている。
- ・ 1つ目は「食」である。若者は単純なことにすごく喜び、感動し、それを誰かに伝える性質がある。例えば、ある道の駅で販売されているミニトマト大福は、噛んだ時に中身が飛び出して服を汚してしまうことがある。若者にしてみればそれがおもしろい。珍しさからネット上で写真やコメントを掲載し、それがきっかけで広がった事例がある。
- ・ また、先日視察に行った、産直市では、果物を沢山使ったカフェがあり若者に凄く人気がある。この施設を誰が運営するかによって異なってくるが、若者が注目するもの(スイーツが中心)をしっかりと考える必要がある。
- ・ 2つ目はいちご狩りである。いちご狩りは子供だけでなく若者やカップル、グループの人達が沢山来てくれる。徳島は暖かいので12月から6月上旬くらいまでいちご狩りができると思うので、半年間いちご狩りで若者を呼べるのではないか。

**【F委員】**

- ・ ミカンでも何でもいいと思うが、何故いちごなのか。

**【A委員】**

- ・ いちごの1番のポイントは収穫時期の長さである。他の果物が数か月なのに対し、冬場～春までの半年間も収穫できる果物は他にない。

**【G委員】**

- ・ 農協では食育イコール食農教育ということで、農業を知っていただく食農に取り組んでおり、食の大切さを学ぶため、子供を対象にイモ掘り体験と合わせて、実際

に調理して味わうというような取り組みをしている。

- ・ 農地の有効活用が難しくなっているため、出来れば、今の計画地の近くで、市民菜園的なものか誰かの経営のななかでやっていただいで体験させる。また、直売所に出していただくというような取り組みをしてもいいのではないか。

#### 【C委員】

- ・ 徳島市としても農業体験をしていたのではないか。

#### 【G委員】

- ・ しています。稲の苗を植えて収穫する等、あらゆる作物で農業体験していただいでいるが、農業委員会などでは体験を図画コンクールなどを行っている。図画コンクールをすれば子どもが集まり、その親も集まってくる。人が人を呼び、地域のコミュニティの場となる。人が人を呼ぶ幅広い活用を目指す必要がある。

#### 【B委員】

- ・ 徳島大学では平成28年4月に、生物資源産業学部を開設予定であり、農業体験をするというカリキュラムも組まれているので、活用してみてもどうか。

#### 【C委員】

- ・ 考古資料館と矢野の史跡公園愛護会の方たちが連携して考えた、古代米を子供達に作らせて食するイベントの企画があったが、実用には至らなかった。
- ・ 現在、古代米のイベントは県の埋蔵文化財センターの近くで行っているが規模は小さい。土地柄を感じる古代米を使った給食のようなレシピができればいいのではないか。

#### 【B委員】

- ・ 徳島大学では新学部開設に向けて新しい教授や研究者が集まるので、新商品の開発等でも活用してみてもどうか。

#### 【F委員】

- ・ 現在、道の駅でいちご狩りや農業体験が出来る施設はあるのか。

#### 【A委員】

- ・ いちご狩りができる道の駅というのはあまりないが、直売所単独の店の裏にいちご狩りハウスを作っている例はいくつもある。
- ・ 道の駅で多い体験農業は、いちご狩り以外のイモ掘り、ミカン狩り、柿狩り等である。

#### 【H委員】

- ・ 設備に費用がかかるから、直営では難しいのではないか。

#### 【A委員】

- ・ 確かにそうである。大分県では施設自体は道の駅で作り、栽培は地元のいちご農家に委託している例がある。

#### 【H委員】

- ・ いちごの魅力は大きいと思う。電動サイクル自転車を使ったツアーを行っている

が、いちご狩りは3月に2回、4月と5月に1回ずつの年3~4回行うが、いつも参加者がいる。60分1,200円なので決して安くはないが、毎回いちご狩りに参加される方もいる。

**【A委員】**

- ・ それは安いほうである。大体30分で1,200円~1,500円が相場である。

**【H委員】**

- ・ 皆さんコンデンスミルクやアイスクリームを持ってきたりする。中には氷水を持ってきていちごを冷やして食べる人もいる。
- ・ いちごに関しては、特に女性の方に人気がある。

**【A委員】**

- ・ いちごの魅力は非常に大きく、集客力もある。

**【C委員】**

- ・ 農業体験だけではなく、国府はしじら織りや藍染め等の本場なので、体験が出来る上屋が必要ではないか。

**【B委員】**

- ・ 地場産業振興施設というので対応してはどうか。そういう可能性はあるのか。

**【事務局】**

- ・ 今の基本計画の設備に関しては、想定規模としている。産直市を始め、運営により面積配分は変わってくると考えている。設計の段階で規模を含めて精査し、施設規模を縮小することがあれば、新たな取り組みを取り入れる等の対応をしたい。

**【B委員】**

- ・ 地場産業振興施設が展示場や体験としての機能を持つものであるのか。

**【事務局】**

- ・ その中で何をするかというのはこれから具体的に決めるので、それも含めて検討していきたい。

**【B委員】**

- ・ 今はアイデアをつぶさない方向で議論したいと考えている。

**【E委員】**

- ・ 施設規模も限度があるため、何をするかは絞り込む必要があるのではないか。

**【B委員】**

- ・ いいアイデアなのでやってみたいとなった途端に障壁ができてしまうことのないように考えて欲しい。

**【C委員】**

- ・ 農業施設（いちごだったらハウス）は周辺の畑の協力が必要だと思う。それについてどの程度資金が必要かというのは派生した話であり、こういう場所が取れたらいいなというレベルの話で良いのではないか。

**【E委員】**

- ・ いちご狩りならいちご狩りに集中すべきではないか。いろいろ手を広げると規模が小さくなってしまわないか。

**【C委員】**

- ・ 地場産の体験コーナーと作るというのと、農業体験・いちご狩りは別のエリアではないか。

**【B委員】**

- ・ 運営手法としては様々であるが、今の段階でそれが出来るかどうかの確認をしておく必要があり、それがコンセプトに入っているということが重要である。

**【E委員】**

- ・ 町内にいちご狩りに使えるハウスはいくつかあるが、新しくハウスを作るとなると大変である。

**【A委員】**

- ・ 棚栽培はされているか。土耕か？

**【G委員】**

- ・ 恐らく土耕ではダメ。長い期間するなら棚栽培の方が良い。
- ・ 業者に協力してもらい、水耕栽培等の技術を教えてもらうのも良い。

**【B委員】**

- ・ オープンファームという取り組みがあって、農家さんが自分の畑を順番に案内しながら、作物を買っていくというもので、佐那河内でやってる。やり方はいろいろあると思う。
- ・ 少なくとも地場の農業との連携が出来る施設というイメージはどこかに書いてある方が良い。道の駅が連携窓口的な役割を果たすと良い。

**【事務局】**

- ・ 基本計画で14の施設を整備する計画になっているが、これだけしか造らないということでもないし、これがすべて造れるかということでもない。これから進る運用や設計のなかで、いちご狩りにしても何にしても、増やせるスペースがあれば、パブコメの意見も含めて参考にしたい。まずは基本計画で、謳っている施設を基準に、プラスαで何をやっていくかということを含めて今後検討をしていきたい。

**【B委員】**

- ・ (素案) 24ページの豊かな農作物や地域の特産品を生かした産業振興機能の中にコンセプトが書いてある。この五つ(のコンセプト)だと、地場の農業との連携を図るなど書いておいてもいいのではないか。
- ・ まわりの農家との機能はあった方がいいのではないかというのが今の意見である。
- ・ 基本設計には中でやることしか書いていない。窓口的な機能はどこかで書いてあるか。

**【事務局】**

- ・ 外との連携についてはとりあえず想定していないので、そういう話があれば可能性はあると思う。当然しないということはないと思うが、現状として、外との連携は今回の計画には含めていない。

**【B委員】**

- ・ あった方がいいんじゃないかという意見なんです。書いておかないと指定管理でこういうことやってくださいといかなくなるんじゃないかという意見なんです。

**【事務局】**

- ・ なければできないという話ではない。

**【A委員】**

- ・ 文言的に入れるのであれば、単に収穫だけでなく、生育ステージにあわせて複数回農家へ行って体験農業をしに行くというような取組について記載してはどうか。

**【C委員】**

- ・ 今は施設のことに関して話しているので、今の話は少し違うのでは。

**【B委員】**

- ・ 施設もあるが機能が重要で、産業振興機能の問題。
- ・ 何をするかは具体的に書かなくてもよいので、素案に示してある産業振興機能の中に周辺農家との連携を図り、活性化を図る機能と明記するだけでよいのだが。

**【事務局】**

- ・ 検討します。

**【G委員】**

- ・ （素案）4ページのコンセプトの③に書いてあるのでは。都市住民だけですか。

**【B委員】**

- ・ まわりの産業と連携するというイメージはない。周りの生産者と連携するのは直売所自体がその仕組みなんだが、もうちょっと拡張したものをちゃんと入れておかないと忘れられる。
- ・ 検討していただきたい。
- ・ 実際に運営する立場の人にとっては重要なファクターである。

**【G委員】**

- ・ 計画地は決定しているのか。

**【事務局】**

- ・ 区画についてはこれからになるが、位置的には決定している。

**【H委員】**

- ・ パブリックコメントの中にバス停の話があるが、道の駅がパーク&ライドに対応すべきものかどうかを知りたい。最近サービスエリアが駐車場変わりになって問題にもなっている。

**【B委員】**

- ・ 道の駅に交通サービス拠点としてバス停を作り、待合い場所に使うという考えがある。バスを待っている間に買い物などできる場所にバス停を作るケースが増えている。今回の道の駅にその機能はないのか。

**【事務局】**

- ・ 無いとは言い切らないが、すぐ近くにバス停がある。

**【B委員】**

- ・ そのバス停を、待合が出来る場所に持っていくという考え方である。バスは1日に3~4本と少ないのであれば、より待合場所が必要ではないか。
- ・ まちづくりの視点から生活拠点を作ろうという話があり、バス停や広域施設を作る中で拠点を作っていくことは重要である。
- ・ 運用上の課題はあるものの、淡路島に訪れるサイクリストは道の駅に車を駐車し、自転車で島を1周して帰っていくという利用方法もある。

**【C委員】**

- ・ 貞光ゆうゆう館はそのような形でよく利用されているのではないか。

**【B委員】**

- ・ 徳島の道の駅施設は、サイクリストが自由に駐車できるようになっている。全国的にも珍しい。
- ・ 本日意見のあった食に関する話やいちご狩りを中心とした地域農家との連携については何らかの形で入れて頂き、中身については（事務局に）お任せしたい。

**【C委員】**

- ・ 経済効果はこの中に織り込まないのか。試算は出ないのか。

**【事務局】**

- ・ 基本計画の中で経済効果を謳う必要はないと考えている。数値を出せばその数字に対して色々意見が出てくるので、数値化するのはどうかと考えている。

**【B委員】**

- ・ 文言については事務局で検討していただき、委員長と副委員長とで確認することとする。基本計画の中では色々なアイデアをつぶさず、やれそうなことについては入れて置く方向ですすめる。具体化する段階が次で、どういう方がどういう形で運営するかによって、相当違ってくるので、基本計画は広くまとめることとしたい。

**【I委員】**

- ・ 本道の駅整備に際しては集客が一番大切だと考えている。その手段として付加価値のある施設をつくるというところまでしか出ていない。何か集客の目玉がないと、施設を作っても来てもらえないと考えている。その目玉について、市はどのように考えているのか。

**【B委員】**

- ・ いくつか意見が出ているが、絞っていないということである。何かやらなければ

いけないと思うが、全部やる必要はない。どんな仕掛け作りをして、どんな空間を組み合わせるかが鍵であり、それを縛らない方がいいというのが私の意見である。アイデアはたくさん出たほうがよい。

- ・ 実際はやってみたいという方がどれだけいるかである。やりたいことと運営体制は結びついてくるので、スイーツをやるならばそれなりのプロが必要である。
- ・ 今後、どのような仕掛けで運営していくか選択していく必要があり、受身的に運営しているようでは立ち行かなくなると思う。市は施設を整備するが、運営は自立させる必要があると考える。
- ・ 基本計画としてはこの方向で施設整備に向かって進めていただき、運営の魂の部分については今後検討してつめていただきたい。

以 上